



こうべ森の学校だより

No.81
2018年3・4月号

発行人：こうべ森の学校 編集委員会
発行所：神戸市北区山田町下谷上中一里山 4-1
神戸市森林整備事務所内
Tel: 078-371-5937 Fax: 078-371-1087

MY FAVORITE THINGS T. FUJIWARA



中学生の時に観たミュージカル映画『サウンド・オブ・ミュージック』が印象に残っている。内容も良かったが、ジュリー・アンドリュースの歌が素晴らしい。その中で最もヒットしたのが『ドレミの歌』だ。ペギー葉山が童謡として歌っていたのを覚えている。私としては『私のお気に入り』の曲が好きだった。ジャズの巨匠ジョン・コルトレーンがアレンジして『MyFavoriteThings』というアルバムが大ヒット！LPレコードも買ったし、学生の頃はジャズ喫茶でよく聴いたものだ。コルトレーンのソプラノサクスが実にいい。何度聴いてもいい。エルビン・ジョーンズのドラムスも Good です。私の中の名盤！

と、ここまできて「何でこの森学だよりに楽曲やねん！音楽同好会？」というツッコミが聞こえてきた(笑)

ここから森の学校へ転調して行きます。

私たちは年中、四季を感じながら再度周辺で活動しています。そこでは、哺乳類、鳥類、爬虫類から両生類、昆虫、菌類までとあらゆる生物に出会います。色んな景色も楽しめます。そこで My Favorite Things In FUTATABI (私の好きなもの) を紹介しましょう。

- 先ずは ◎春のコバノミツバツツジ ◎秋の修法ヶ原池
 - ◎グラデーションのイロハモミジ ◎栽培したシイタケ
 - ◎檻のイノシシ ◎池に飛来するマガモ ◎活動地のルリビタキ
 - ◎ボートハウスの亀の日向ぼっこ ◎凍結した修法ヶ原池
 - ◎雪の再度公園 ◎木工作品の仔猫
- そして◎森の学校の旗もお気に入りです。

みんな再度公園に来てね！あなたのお気に入りがあります！

皆さん、肩の力を抜いて！森の中へ！

(次ページに写真を掲載しています)



3月10日 例会の集合写真

再度山 四季の表情



春のコバノミツバツツジ



秋の修法ヶ原池



グラデーションのイロハモミジ



栽培したシイタケ



檻のイノシシ



池に飛来するマガモ



活動地のルリビタキ



ボートハウスの亀の日向ぼっこ



凍結した修法ヶ原池



雪の再度公園



木作品の仔猫



森の学校の旗

豚汁のふるまい



いつも大好評です

2月18日の例会で恒例の豚汁の振る舞いがありました。大鍋2つの具沢山の豚汁は大好評のうちに完食しました。

こうべ森の学校だよりの製本が完成



森学だよりの製本

会員の皆様にご覧いただいている「こうべ森の学校だよりの」製本ができました。2005年名4月の創刊号から2018年2月の80号まで網羅されています。近日中に神戸市内の図書館や関係先に配布される予定です。機会があれば、お手にとってご覧ください。

宮城県の仮設住宅で追悼行事の支援活動

木下 英吉

東日本大震災から7年を迎える3月11・12日、ひょうごボランティアプラザ(兵庫県社協のボランティア支援部門)主催のボランティアバスに18(高卒後)~79歳の30名が参加しました。



荒浜の松苗植栽地

○ 11日(日)、これまでの6年間(3月・8月に12回)支援・交流活動が続けている名取市愛島(メデシ

マ)東部団地仮設住宅での追悼行事のお手伝いです。

先立ち、入居者が震災前に住んでいた閑上地区にある日和山の慰霊碑に、全員で黙祷を捧げました。昨年12月に植樹した“鎮魂と希望の桜”(オオシマザクラ)に水やりをし、蕾が膨らみ順調に育っていることを感じました。

当仮設住宅は、当初180世帯以上が入居していたが、若い世代から退去していて、現在は高齢の40世帯が暮らしている状況。この度のような行事には、仮設住宅から出た人達も集り、お互いの近況を気遣う機会にもなっている



書家も「道」を書き入れ

ようです。犠牲者名が書かれた竹灯笼700本を神戸から持込み、追悼行事の準備です。「

3.11、ユリアゲ、志」の文字に並べ、水を入れてロウソクを浮かべます。14時30分頃には、その周りに住民やボランティア・報道関係者がその周りに集まっていました。犠牲者名が書かれた竹灯笼を見つけると、神戸から分灯された「1・17希望の灯り」をロウソクに移し、気持ちを込めて火を



全員で黙祷

灯されていました。14時46分の発災時刻には、全員で1分間の黙祷を捧げ、また17時46分(阪神・淡路大震災の

発災時刻5時46分に因み)には、その場に居る全員が竹灯笼を囲むように手を繋ぎ・心をついに1分間の黙祷を捧げました。

今回、被災地に何かできることはないかと想い続けていた、神戸市西区在住でダウン症の女性書家(32歳)が初め

て当仮設住宅を訪れました。柔らかな筆致で心温まる言葉をしたためた「一瞬にして何もかも流れてしまう自



竹灯笼に点火

然の怖さ 命をたくして次につなげる これが命を使うという事なのかな」等の作品15点を展示。書に見入った住民らは声を合わせて読み上げ、目を潤ませていました。

書を目にして「ずっと心に入ってきた。生きててよかったって、背中を押してくれた。震災後に生まれた孫や家族と一緒に、前を向きたい」と笑顔で書家と交していました。また、この書家には竹灯笼に、“繋がる”の想いを込めた「道」の文字を書いていただきました。

終了後は、仮設住宅集会所での交流会です。住民・ボランティア・学生・地元や神戸からの報道関係者ら150人程が一堂に会し、また、この時間に山田名取市長も駆けつけていただきました。全員が思い思いの席に座り、普段の何気ない話や近況を互いに交し、共に一時を過ごしました。その中で、「今年も忘れないで来ていただき、嬉しい。忘れることは、何もなかったことになるので、それが一番怖い」との言葉が胸に残りました。

○ 12日(月)、仙台市荒浜地区での海岸清掃と追悼行事の後片付け



竹灯笼の片付けと清掃

まず全員で、荒浜地区の慰霊碑に黙祷を捧げ、近くの「里海荒浜ロッジ」を拠点に活動をしている“荒浜再生を願う会”代表から近況を聞かせていただきました。

1班は、付近や海岸(元深沼海水浴場)の清掃を行いました。辺りに目をやると、“ゆりりん愛護会”(震災前から海岸防災林の保全活動を続けていて、震災後は流された防災林の再生活動を続けている。昨年まで森学から7回の支援金を贈呈)が植林した海岸防災林の松苗が、順調に育っていることが見受けられました。

もう1班は、仮設住宅での後片付けで、辺りや集会所の清掃を行いました。昨日使ったロウソクや竹灯笼は、竹割り器で細かくして土嚢袋に詰め、バスのトランク一杯一杯に積み込み持ち帰りです。住民の方々にお盆の再会をお願いして、今回の活動を終了しました。

■前々回・前回の報告

日付	参加者	司会	午後・森の手入れ	木工工作	自然観察	苗づくり
2月18日(日)	66名	斉藤さん	17名	19名	12名	7名
3月10日(土)	42名	松本さん	18名	10名	5名	4名

東お多福山草原保全・再生研究会の活動

3月24日(土) 東お多福山草原・保全再生研究会の平成29年度最後の行事「芦屋市域の特別保護地区内の全面刈り」を実施しました。ようやく春めいてきて、爽やかな草刈り日和でした。環境省の計らいで、山頂付近の生育状況の悪い杉を一部間伐し、見晴らしが良くなりました。



山頂から大阪湾が一望できます

芦屋市域の特別保護区は3m近くまで成長したネ

ザサが密集していて、なかなか手強いです。ひたすら刈払機と鋏で刈り取りました。

続いて4月7日(土)に平成30年度1回目の活動を実施しました。50名以上の方にお集まりいただき、3か所の活動地区に分散して、早春の全面刈りをしました。昼頃にアラレが降るなど荒れ模様の天気でしたがマンパワーを発揮して、予定していた作業を完了することができました。

次回の活動日は5月23日(水)の予定です。



早春の全面刈りをしました

お知らせ・掲示板

♠こうべ森の小学校 & 森のようちえん

次回の開催予定日は4月22日(日)

(問い合わせは、神戸市森林整備事務所に)

♠摩耶の森クラブ

次回の開催予定日は4月28(土)

(問い合わせは、神戸市森林整備事務所に)

♠バスの運行

こうべ森の学校月例会には阪急バス61系統(神戸駅南口～鈴蘭台)をご利用ください。神戸駅南口バス停9時発のバスに乗り、水源池バス停で下車して徒歩25分で、こうべ森の学校「風楽山荘」に到着します。神戸市バス25系統(三宮～森林植物園)は12月から3月まで運休しております。

平成26年度から再度公園駐車場が無料開放されています。こちらもご利用ください。

♠ボランティア保険に加入していますか

森の手入れの作業中の事故に備えて「兵庫県ボランティア・市民活動災害共済保険」への加入手続きをされていますか。掛け金は500円の負担で補償期間は4月1日から翌年3月31日までです。受付窓口はお住まいの市区町社会福祉協議会です。

会員活動の開催予定日

・月例会 5月12日(土)・6月17日(日)

午前中は全員で森の手入れを行います。午後は自然観察・木工・苗作り・森の手入れから選択していただきます。

・上記以外の火・木・土曜日にも活動しています。

「こうべ森の学校」は、発足当初から物心両面にわたり伊藤ハム株式会社の社会貢献活動の支援を受けて運営されています。

編集後記 3月はじめに町内のこども会行事で、住吉から石切道を経由してガーデンテラスまで登ってきました。歩きながら、かつて住吉川沿いに多数あった水車小屋で酒米の精米などをしていたことや、六甲山の花崗岩を大阪城築城の際に使ったという石切道の話をしました。昔の石臼や採石場の跡地をフィールドで見聞きすることは教科書で学

ぶより、何倍も新鮮で忘れることはないでしょう。時折聞こえてくるウグイスやシジュウカラのさえずりに、子供たちは目を輝かせ興味を持ってくれました。身近にあり、四季折々の表情を見せてくれる「六甲山」の美しい自然環境を守り、そこに刻まれた歴史を後世に語り継いでいくのも、私たちの務めだと思います。 斉藤 豪